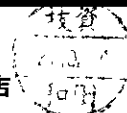


E-SX80 E-GX81 E-JZX81 E-MX83 E-YX80 Q-LX80
 E-GX70G E-YX76V S-LX76V E-SX80Y E-YX80Y Q-LX80Y

P, A, V店



標 題 トヨタ マークII, チェイサー, クレスタの新車点検・定期点検についてのお知らせ

トヨタ マークII, チェイサー, クレスタのマイナーチェンジに伴い、新車点検および定期点検に関する点検項目と整備基準値をお知らせします。

なお、本整備編に記載されていない項目については下記資料を参照してください。

整備関係資料

資 料 名	品 番	発 行 年 月
トヨタ新車点検作業要領説明書	—	1984年10月
トヨタ定期点検作業要領説明書	68550	1983年7月
技術連絡書修理編 新定期点検整備方式について	総括4032	1984年12月
トヨタ マークII, チェイサー, クレスタ修理書 上巻, 下巻	62105, 62113	1988年8月
トヨタ マークII, チェイサー, クレスタ修理書/追補版	62118	1989年8月
トヨタ マークII, チェイサー, クレスタ修理書/追補版	62122	1990年8月

目 次

	ページ
1. 新車点検整備基準値	2
2. 点検整備方式の変更	4
3. 各部油脂・冷却水と容量	5
4. 定期点検整備基準値	7
5. 定期点検作業要領	13

1. 新車点検整備基準値

太線の囲みは変更を示します。

点 検 箇 所		基 準 値									
ブレーキフルード量		MAXラインとMINラインの間にあること									
クラッチフルード量		MAXラインとMINラインの間にあること									
アイドル回転数 (rpm)	エンジン型式 トランスミッション	4S-FE	1G-FE	1G-GE	1JZ-GE	1JZ-GTE	7M-GE	2Y-J	3Y-P	2L	2L-T
	M/T	無調整式	←	←	←	←	←	600 ~700	550 ~650	700 ~800	←
	A/T	650 ~750	650 ~750	←	←	600 ~700	650 ~750	700 ~800	700 ~800	—	750 ~850

ワイパー停止位置
ウォッシャー噴射位置
(mm)

フルコンシールド

セラミックス上端線

A = 10 ± 20 (35 ± 20)
B = 25 ± 20 (35 ± 20)

※着水点、かけあがり点が に入っていること。
※() 内はフルコンロックバック車

H4736 H6019

※ウォッシャー噴射位置はアイドル回転。

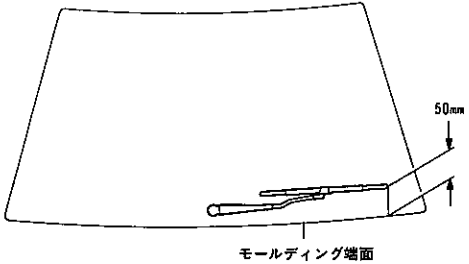
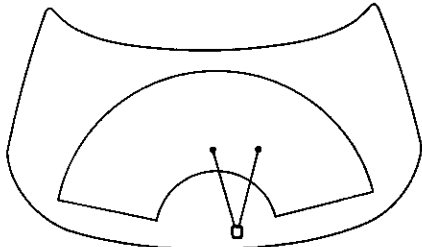
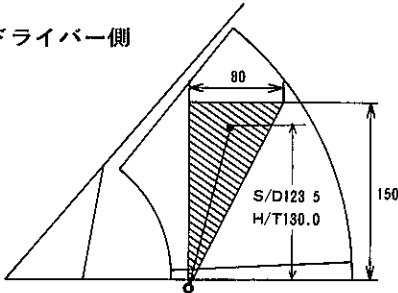
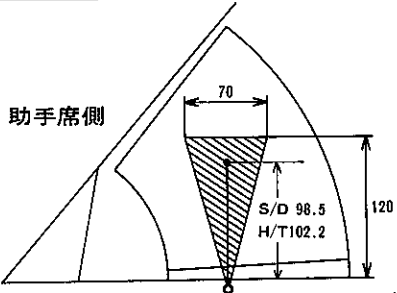
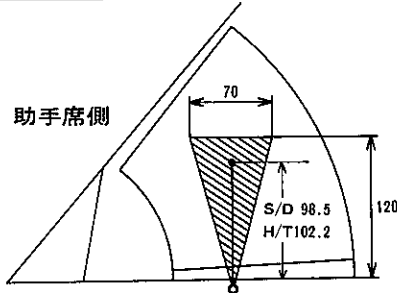
セミコンシールド

ルーバー後端線

A = 16 ± 20
B = 16 ± 20

※着水点、かけあがり点が に入っていること。

H4735 H6019

点 検 箇 所	基 準 値	
	リ ヤ ワ イ パ ー	 <p>50mm</p> <p>モールディング端面</p>  <p>H3250 H6018</p> <p>※着水点、かけあがり点共にワイピングエリア内に入っていること。</p>
<p>ワイパー停止位置 ウォッシャー噴射位置 (mm)</p> <p>※ウォッシャー噴射位置はアイドル回転。</p>	サ イ ド ワ イ パ ー	 <p>H/Tガラス端部 S/Dガラス端部</p> <p>A</p> <p>A寸法 H/T=14⁺³⁰₋₅ S/D=12⁺³⁰₋₅</p> <p>H8556</p> <p>※寸法測定条件、アイドル回転時、ガラス面wet状況 ※着水点、かけあがり点共にワイピングエリア内に入っていること。 ※ウォッシャー噴射時、ウォッシャー液とワイパーアームの干渉がないこと。</p> <p>ドライバー側</p>  <p>80</p> <p>150</p> <p>S/D 123.5 H/T 130.0</p> <p>助手席側</p>  <p>70</p> <p>120</p> <p>S/D 98.5 H/T 102.2</p> <p>H6016 H6017</p>

太線の囲みは変更を示します。

点 検 箇 所		基 準 値	
ブレーキペダル	高 さ (mm)	運転席側	156~171(アスファルトシート上面から)
		補助席側(教習中のみ)	149~160(アスファルトシート上面から)
	遊 び (mm)	1~6	
	踏み残りしろ (mm)	72以上(踏力50kgアイドル状態、アスファルトシート上面から)	
パーキングブレーキレバー引きしろ		センター式(操作力20kg)	足踏式(踏力30kg)
		3~8ノッチ	3~7ノッチ
オートドアロック速度		20~30km/h	

2. 点検整備方式の変更点

点 検 整 備 項 目	点 検 整 備 時 期									点検方法及び判定基準	備 考
	運 行 前	自 家 用			事 業 用 等			走 行 の 整 備 千km	交 換 時 期 年毎		
		6 か月毎	12 か月毎	24 か月毎	1 か月毎	3 か月毎	12 か月毎				
原 動 機 冷 却 装 置 油圧駆動冷却ファンの 油漏れおよび油量			○	○	○	○	○	※1		点検方法： 〔油漏れの点検〕 オイルポンプ、油圧モーター、ホース、パイプおよび接続部などから油漏れがないかを目視などにより確認する。 〔油量の点検〕 リザーバタンクのレベルメーカの指示範囲にあること。	1 JZ-GTE エンジン
本 体 タイミングベルト交換									100		2 Y-J, 3 Y-Pを 除く

3. 各部油脂・冷却水と容量

太線の囲みは追加を示します。

項 目		容 量 (ℓ)			指 定 油 脂	
油 脂 名	型 式	オイルのみ 交 換 時	オイルと オイルフィルター 交 換 時	全 容 量		
エ ン ジ ン オ イ ル	2 Y-J	3.0	3.5	4.2	キヤッスル・クリーンSG (SG) キヤッスル・クリーンエクセレント (SF) キヤッスル・クリーンターボ (SF) キヤッスル・クリーンロイヤルII (SE) キヤッスル・クリーンスーパー (SD)	
	4 S-FE	3.6	3.8	4.5		
	1 G-FE	3.9	4.1	4.5		
	1 G-GE	3.8	4.0	4.9		
	1 JZ-GE	4.2	4.5	5.2		
	1 JZ-GTE					
	7 M-GE	4.1	4.4	5.1		
	3 Y-P	3.0	3.5	4.2		上記5種類に加えて キヤッスル・クリーンLPG
	2 L	4.8	5.8	6.5		キヤッスル・ディーゼルオイルニュースペシャルII (CD) キヤッスル・ディーゼラックスS-3 (CD)
2 L-T						
冷 却 水	2 Y-J	6.8			LLC (キヤッスル・ロングライフクーラント) (凍結保証温度 30%.....-12℃) 50%.....-35℃)	
	4 S-FE	6.8				
	1 G-FE	6.9				
	1 G-GE	6.8(M/T), 6.7(A/T)				
	1 JZ-GE	8.1				
	1 JZ-GTE	8.1				
	7 M-GE	8.3				
	3 Y-P	7.2				
	2 L	9.6				
2 L-T						
マ ニ ュ ア ル トランスミッション オ イ ル	W55	2.4			GX, YX系 キヤッスル・MGギヤオイルスペシャルII (SAE75W-90) LX系 キヤッスル・ギヤオイル (SAE85W-90)	
	W57					
オ ー ト マ チ ッ ク トランスミッション オ イ ル	A41	5.3(2 Y-J, 3 Y-P)			キヤッスル・オートフルードD-II	
	A42D	6.5(2 L), 6.7(4 S-FE)				
	A42DL	6.3(1 G-FE)				
	A43D	6.5(2 L-T)				
	A340E	6.7(1 G-GE, 1 JZ-GE)				
	A341E	7.2(1 JZ-GTE, 7 M-GE)				

項 目		容 量 (ℓ)	指 定 油 脂	
ステアリングギヤハウジンググリース		—	キャッスル・シャシーグリーススペシャル	
パワーステアリングフルード	ポンプ交換時	0.35	キャッスル・パワーステアリングフルード	
	総容量	0.8 0.9(JZX81系, SX80教習車)		
ディファレンシャルオイル	4 リ ン ク	7.1インチ	1.4	キャッスル・ハイポイドギヤオイルS
		7.5インチ	1.5	
	I R S	7.5インチ	1.2	キャッスル・ハイポイドギヤオイルSX
		8.0インチ	1.3	
		8.0インチ(LSD)	1.3	
ホイールベアリンググリース		—	キャッスル・MPグリースNo. 2	
ボールジョイントグリース		—	キャッスル・シャシーグリーススペシャル	
クラッチフルード		—	トヨタブレーキフルード2500H	
ブレーキフルード		—		
プロペラシャフトグリース		—	キャッスル・MPグリースNo. 2 キャッスル・シャシーグリーススペシャル (フレキシブルジョイント部)	

4. 定期点検整備基準値

エンジン関係 (1/2)

太線の囲みは追加を示します。

エンジン型式			4 S-FE	1 G-FE	1 G-GE	1 JZ-GE	1 JZ-GTE	7 M-GE	
Vリフトベルト たわみ量 〔押し10kg〕 (mm) ()内は張力(kg)	オルタネーター ベ ル ト	A/Cなし	13~17 (30~45)	14~20 (25~40)	←	インジケ ターにて点 検 (無調整式)	←	15~19 (30~40)	
		A/C付き	9~11 (45~55)						
	A/C ベ ル ト	—	9~11 (25~40)	←	↑	↑	11~14 (25~40)		
	P/S ベ ル ト	9~14 (20~35)	7~9 (20~35)	6.5~7.5 (20~35)	↑	↑	9~11 (25~40)		
バッテリ - 液比重 (液温20℃)			1.25~1.27, 1.27~1.29(80D26L, 95D31L, 125D38L, 140D38L)						
点 火 時 期 (°BTDC/rpm)	サブ進角なし T端子短絡時	M/T	8~12/650	8~12/700	←	9~11/700	8~12/650	9~11/700	
		A/T	8~12/700						
	サブ進角あり T端子開放時	M/T	12~23/650	12以上/700	←	5以上/700	8以上/650	9~11/700	
		A/T	12~23/700						
アイドル回転数 (rpm)			無調整式	←	←	←	←	←	
			M/T	(650±50)	(700±50)	(700±50)	(700±50)	(650±50)	(700±50)
			A/T	(700±50)					
アイドルCO濃度 (%)			1.0以下	←	←	←	←	←	
アイドルHC濃度 (rpm)			800以下	←	←	←	←	←	
バルブクリアランス [冷間] (mm)			I N	0.24±0.05	0.20±0.05	←	←	←	0.20±0.05
			E X	0.33±0.05	0.30±0.05	0.25±0.05	0.30±0.05	←	0.25±0.05
シリンダーヘッド締め付けトルク [冷間] (kg・cm)			※1	650	←	※1	←	800	
インテークマニホールド締め付けトルク (kg・cm)			195	180	230	※2	←	180	
エキゾーストマニホールド締め付けトルク (kg・cm)			500	260	←	※2	←	400	
圧 縮 圧 力 [250rpm時] (kg/cm ²)			基 準 値	12.5	13.0	←	13.0	12.5	12.0
			限 度	10.0	←	←	11.0	9.0	←
			気筒差	1.0	←	←	←	←	←
スパークプラグギャップ (mm)			基 準 値	1.0~1.1	←	※3	※3	※3	※3
			限 度	1.3	←	←	←	1.0	1.3
ラジエーターキャップ開弁圧 (kg/cm ²)			基 準 値	0.75~1.05	←	←	←	←	←
			限 度	0.60	←	←	←	←	←

※1 塑性域締め付けのため点検不要

※2 点検不要

※3 白金プラグ使用のため点検、調整不要

エンジン関係 (2/2)

項目		エンジン型式	2 Y-J	3 Y-P	2 L	2 L-T
Vリブドベルト たわみ量 〔押力10kg〕 (mm) ()内は張力(kg)	オルタネーターベルト		7~8 (25~40)	7~8 (30~45)	10~15 (20~35)	←
	A/C ベルト		9~13 (20~40)	9~13 (20~35)	17~21 (20~35)	←
	P/S ベルト		7~10 (20~35)	7~10 (20~35)	10~15 (20~35)	←
バッテリー液比重〔液温20℃〕			1.25~1.27, 1.27~1.29 (80D26L, 95D31L, 125D38L, 140D38L)			
点火時期 (°BTDC/rpm)	サブ進角なし (T端子短絡時)		8±2/650 M/T 8±2/750 A/T	12±2/600 M/T 12±2/750 A/T	—	—
	サブ進角あり (T端子開放時)		—	12±2/600 M/T 12±2/750 A/T	—	—
アイドル回転数 (rpm)	M/T		600~700	550~650	700~800	700~800
	A/T		700~800	700~800	750~850	750~850
噴射時期〔プランジャーリフト量〕 (mm)			—	—	0.60±0.06	刻印合わせ
噴射圧力 (kg/cm ²)			—	—	150	←
ディーゼルスモーク濃度 (%)			—	—	50以下	←
アイドルCO濃度 (%)			2.5以下	←	—	—
アイドルHC濃度 (ppm)			800以下	←	—	—
バルブクリアランス〔冷間〕 (mm)	I N		無調整式	←	0.25±0.05	←
	E X		無調整式	←	0.45±0.05	←
シリンダーヘッド締め付けトルク〔冷間〕 (kg・cm)			M12 800 M 8 195	←	※1	※1
インテークマニホールド締め付けトルク (kg・cm)			450	←	240	←
エキゾーストマニホールド締め付けトルク (kg・cm)			450	←	530	←
圧縮圧力〔250rpm時〕 (kg/cm ²)	基準値		12.5	13.0	32.0	31.0
	限度		9.0	←	20.0	←
	気筒差		1.0	←	5.0	←
スパークプラグギャップ (mm)	基準値		0.7~0.8	※2 1.0~1.1	—	—
	限度		1.0	1.3	—	—
ラジエーターキャップ開弁圧 (kg/cm ²)	基準値		0.75~1.05	←	←	←
	限度		0.6	←	←	←

※1 塑性域締め付けのため点検不要

※2 白金プラグ使用のため点検、調整不要

シャシー関係 (セダン, ハードトップ 1/2)

太線の囲みは変更、追加を示します。

車 両 型 式		SX80 SX80Y系	YX80 YX80Y系	GX80 GX80Z系	JZX81系	MX83系	LX80 LX80Y系
ステアリングホイールの遊び 〔ステアリングホイール外周にて〕 (P/S付きは油圧作動時) (mm)		0~30	←	←	←	←	←
フロントホイール アライメント	サイドスリップ 〔1mにつき〕 (mm)	0~3	←	←	←	←	←
	トーイン点検基準値 (mm)	0~4	←	※1 ← (1~5)	←	←	←
	キャンバー点検基準値 (度)	0°30'±45'	←	※1 ← (0°35'±45')	←	←	←
	キャスター点検基準値 (度)	7°20'±45'	←	※1 ← (7°05'±45')	←	←	←
	キングピンアングル 点検基準値 (度)	13°10'±45'	←	←	←	←	←
リヤホイール アライメント	トーイン点検基準値 (mm)	0~4	←	←	←	←	←
	キャンバー点検基準値 (mm)	0°00'±45'	←	←	←	←	←
フロントホイール 左右回転角度 (度)	内 側	41°±1°30'	←	←	←	←	←
	外 側 (参考)	34°	←	←	←	←	←
ブレーキペダル (mm)	高 さ 〔フロアパネル上面より〕	157~167	←	←	←	←	←
	遊 び 〔負圧なしの状態〕	1~6	←	←	←	←	←
	踏み残りしろ〔踏力50kg〕 〔エンジン ONの状態〕	77以上	←	←	←	←	←
パーキングブレーキ レバー引きしろ (ノッチ数)	センターレバー式 〔操作力20kg〕	5~8 (全ストローク 14)	←	←	—	—	5~8 (全ストローク 14)
	足 踏 み 式 〔操作力30kg〕	5~7 (全ストローク 11)	—	5~7 (全ストローク 11)	←	←	←
パーキングブレーキの効き具合	制 動 力	検査時車両重量の20%以上					
	操 作 力	手動式50kg以下, 足踏み式90kg以下					
ブレーキドラムの径 ()内はパーキングブレーキ用 (mm)	基 準 値	228.6	←	※2 ← (176)	(176)	←	228.6
	限 度	230.6	←	※2 ← (177)	(177)	←	230.6
ブレーキライニングの厚さ ()内はパーキングブレーキ用 (mm)	基 準 値	5.0	←	※2 ← (2.0)	(2.0)	←	5.0
	限 度	1.0	←	※2 ← (1.0)	(1.0)	←	1.0

※1 ()内はGX80Z

※2 GX80Zはドラムブレーキ, GX80はディスクブレーキ, ()内はパーキングブレーキ用

シャシー関係 (セダン, ハードトップ 2/2)

太線の囲みは変更, 追加をします。

中 向 型 式			SX80 SX80Y系	YX80 YX80Y系	GX80 GX80Z系	JZX81系	MX83系	LX80 LX80Y系
ディスクブレーキパッドの厚さ (mm)	前 輪	基 準 値	10.0	←	←	←	←	←
		限 度	1.0	←	←	←	←	←
	後 輪	基 準 値	—	—	9.0	←	←	—
		限 度	—	—	1.0	←	←	—
ディスクブレーキローターの厚さ (mm)	前 輪	基 準 値	20.0	←	※1 20.0 (22.0)	※1 22.0 (30.0)	22.0	20.0
		限 度	19.0	←	※1 19.0 (21.0)	※1 21.0 (29.0)	21.0	19.0
	後 輪	基 準 値	—	—	※2 10.0	18.0	18.0	—
		限 度	—	—	※2 9.0	17.0	17.0	—
ディスクの振れ限度 (mm) (外周より10mmの位置)	フ ロ ン ト	0.07	←	←	←	←	←	
	リ ヤ	0.13	←	←	←	←	←	
ブレーキの効き具合 (注) 前輪の全ての車輪がロックし, 計測困難な場合は, その状態で総和に対し適合するとみなす。	制 動 力	後 輪 和	軸重の20%以上					
		各 輪 左 右 差	軸重の8%以下					
		総 和	検査時車両重量の50%以上					
クラッチヘダル (mm)	高 さ 〔フロアパネル上面より〕	158~168	←	←	←	←	←	
	遊 び 〔ペダル上にて〕	5~15	←	←	←	←	←	
	切れた時の床板とのすき間 〔フロアパネル上面より〕	25以上	←	←	←	←	←	
ホイールベアリングのがた (mm)	フ ロ ン ト 〔ハブ軸方向の動き量〕	0.05以下	←	←	←	←	←	
	リ ヤ 4 リ ン ク 式 〔アクスル中心における軸方向の動き量〕	0.7以下	←	←	←	←	←	
	リ ヤ I R S 式 〔シャフト軸方向の動き〕	0.05以下	←	←	←	←	←	
タイヤ残り溝 (mm)	1.6まで	←	←	←	←	←		
ホイールナットの締め付けトルク (kg・cm)	1050	←	←	←	←	←		
タイヤ空気圧	P.12参照							
フロヘラシャフトの振れ限度 (mm)	0.8以下							

※1 ()内はGX80Z

※2 GX80Zはドラムブレーキ

※3 ()内は1JZ-GTE搭載車

シャシー関係 (ワゴン, バン 1/2)

太線の囲みは変更を示します。

車 両 型 式		GX70G	YX76V	LX76V
項 目				
ステアリングホイールの遊び 〔ステアリングホイール外周にて〕 (P/S付きは油圧作動時)		0~30	←	←
フロントホイール アライメント	サイドスリップ (mm) 〔1mにつき〕	0~3	←	←
	トーイン点検基準値 (mm)	-2~6	←	←
	キャンバー点検基準値 (度)	0°25'±45'	←	←
	キャスター点検基準値 (度)	4°35'±45'	3°55'±45'	←
	キングピンアングル 点検基準値 (度)	10°35'±45'	←	←
リヤホイール アライメント	ト ー イ ン (mm)	0±1	←	←
	キ ャ ン バ ー (度)	0°±45'	←	←
ホ イ ール 左 右 回 転 角 度	内 側 (度)	38°±2°	←	←
	外 側(参考) (度)	33°	←	←
ブレーキペダル	高 さ 〔フロアパネル上面より〕	169~179	←	←
	遊 び 〔負圧なしの状態〕	1~6	←	←
	踏み残りしろ 〔エンジン ONの状態〕 〔踏力50kg〕	70以上	←	←
パーキングブレーキ レバーの引きしろ (ノッチ数)	セ ン タ ー レ バ ー 式 〔操作力20kg〕	6~9 (全ストローク12)	←	←
	足 踏 み 式 〔操作力30kg〕	4~6 (↑)	—	—
ブレーキライニングの厚さ 〔後輪〕 (mm)	基 準 値	5.0	←	←
	限 度	1.0	←	←
ブレーキドラムの径 〔後輪〕 (mm)	基 準 値	228.6	←	←
	限 度	230.6	←	←
ディスクブレーキパッドの厚さ 〔前輪〕 (mm)	基 準 値	10.0	←	←
	限 度	1.0	←	←
ディスクブレーキローターの 厚さ (mm)	基 準 値	18.0	←	←
	限 度	17.0	←	←
デ ィ ス ク の 振 れ 限 度 (mm) 〔外周より10mm内側の点〕		0.15	←	←

シャシー関係 (ワゴン, バン 2/2)

太線の囲みは変更を示します。

項目		車両型式	GX70G	YX76V	LX76V
ブレーキの効き具合 (注) 前輪の全ての車輪がロックし、計測困難な場合は、その状態で総和に対して適合するものとみなす。	制動力	後輪和	軸重の20%以上		
		各輪左右差	軸重の8%以下		
		総和	検査時車両重量の50%以上		
パーキングブレーキの効き具合	制動力	検査時車両重量の20%以上			
	操作力	手動式50kg以下、足踏み式90kg以下			
クラッチペダル (mm)	高さ 〔フロアパネル上面より〕	158~168	←	←	
	遊び 〔ペダル上にて〕	5~15	←	←	
	切れたときの床板とのすき間 〔フロアパネル上面より〕	25以上	←	←	
ホイールベアリングの遊び (mm)	フロント 〔ハブ軸方向の動き量〕	0.05以下〔プレロード1.5kgハブボルト部にてバネ秤の読み〕			
	リヤ4リンク式 〔リヤアクスル中心における軸方向の動き量〕	0.7以下	←	←	
プロペラシャフトの振れ限度 (mm)		0.8以下	←	←	
ホイールナットの締め付けトルク (kg・cm)		1050	←	←	
タイヤ残り溝 (mm)		1.6まで	←	←	

タイヤ空気圧

適用型式	タイヤサイズ	タイヤ空気圧 (kg/cm ²)	
		一般	高速
YX80, YX80Y, SX80Y, LX80Y	6.45-14 4PRLT	1.9 (2.0) ※1	2.2 (2.3) ※1
YX80, YX80Y, SX80Y, LX80, LX80Y	6.45-14 6PRLT	1.9 (2.2) ※2	2.2 (2.5) ※2
YX80Y, SX80Y, LX80Y, YX80, SX80, LX80	175SR14	1.7 (1.9) (2.0) ※3	2.0 (2.2) (2.3) ※3
GX81, LX80 SX80	185/70R14 87H 185/70R14 87S	1.9 (2.1) ※4	2.2 (2.4) ※4
GX81	195/70R14 90S	1.7	2.0
MX83 JZX81 (1 JZ-GE)	195/65R15 90H 205/60R15 89H	2.0	2.3
JZX81 (1 JZ-GTE)	195/65R15 90H	2.1	2.4
JZX81 (1 JZ-GTE)	205/60R15 89H	2.2	2.5
JZX81	205/55R16 88V	2.3	2.3

※1 ()内はLX80Y

※2 ()内はLX80事業用とLX80Y

※3 ()内はLX80, []内はLX80の事業用

※4 ()内はLX80

5. 定期点検作業要領

1. 二次空気供給(導入)装置の機能

2Y-J

- (1) リードバルブとAS用エレメントの間のホースをはずした状態でアイドル運転した時、リードバルブ側ホース差し込み口より、エア吸入音（ポコポコ音）がすることを確認する。

3Y-P

- (1) エアクリーナーキャップをはずした状態でアイドル運転をした時、クリーナーより吸入音（ポコポコ音）がすることを確認する。
- (2) (1)の状態、エンジン回転を約2000rpmに上げた時、エアクリーナーより吸入音（ポコポコ音）が止まることを確認する。

2. 排気ガス再循環装置の機能

2Y-J, 3Y-P

- (1) エンジン暖機後、アイドル運転状態で、EGRバルブのバキュームホースに負圧がかかっていないことを確認する。
(2Y-J, 3Y-P)
- (2) エンジンをアイドル回転から3000rpmまでのレーシングを繰り返した時、EGRバルブのバキュームホースにその都度、負圧がかかることを確認する。(2Y-J, 3Y-P)
- (3) 水温40℃以下の状態で(2)のごとくレーシングを繰り返した時、EGRバルブのバキュームホースに負圧がかからないことを確認する。(2Y-Jのみ)
なお、バキュームホースにかかる負圧の確認は、EGRバルブ側のバキュームホースを抜き、そのホースの先端に手を当てて行う。

2L, 2L-T

- (1) エンジン暖機後、アイドル運転状態でEGRバルブのバキュームホースに負圧がかかっていることを確認する。
- (2) 水温55℃以下のアイドル運転状態でEGRバルブのバキュームホースに負圧がかからないことを確認する。

3. 減速時排気ガス減少装置の機能

1G-FE, 1G-GE, 7M-GE, 1JZ-GE, 1JZ-GTE

- (1) エンジン暖機後、ダッシュポットを作動させないようにし、インジェクターに指を当ててエンジン回転を3500rpm以上まで上げ、スロットルレバーを戻した時、インジェクターの作動による振動が一瞬止まることを確認する。

4S-FE

- (1) エンジン暖機後、インジェクターに指を当てて、エンジン回転を3500rpm以上まで上げ、スロットルレバーを戻した時、インジェクターの作動による振動が一瞬止まることを確認する。

2Y-J

- (1) エンジン回転を3000rpmに上げ、負圧スイッチのバキュームホースをはずし、直接マニホールド負圧がかかるように配管した時、エンジン回転が不安定になることを確認する。

3Y-P

- (1) アイドル運転状態で、負圧切換弁の信号ポートに手動式バキュームポンプなどを用いて600mmHg以上の負圧をかけた時、エンストしないことを確認する。
- (2) エンジン回転を約2000rpmまで上げ、(1)のごとく負圧切換弁の信号ポートに600mmHg以上の負圧をかけた時、エンジン回転が下がるかまたはエンストすることを確認する。

E - SX80系, E - GX80系, E - YX80系, Q - LX80系 (マークIIセダン)

P店

標 題 トヨタ マークIIセダンの定期点検についてのお知らせ

トヨタ マークIIセダンの改良に伴い、定期点検に関する点検項目と整備基準値をお知らせします。
なお、本整備編に記載されていない項目については下記資料を参照してください。

整備関係資料

資 料 名	品 番	発 行 年 月
トヨタ新車点検作業要領説明書 (乗用車編)	66477	1991年2月
トヨタ定期点検作業要領説明書	68550	1983年7月
技術連絡書修理編 新定期点検整備方式について	総括4032	1984年12月
トヨタ マークII・チェイサー・クレスト修理書 上巻, 下巻	62105 62113	1988年8月
トヨタ マークII・チェイサー・クレスト修理書 / 追補版	62118	1989年8月
トヨタ マークII・チェイサー・クレスト修理書 / 追補版	62122	1990年8月
トヨタ マークIIセダン修理書	62143	1993年2月

目 次

	ページ
1. 点検整備方式の変更点	2
2. 各部油脂・冷却水と容量	3
3. 定期点検整備基準値	4
4. 定期点検作業要領	7

1. 点検整備方式の変更点

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期							点 検 方 法 及 び 判 定 基 準	備 考		
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等					走 行 の 整 備 千km	交 換 時 期 年毎
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎				
制 動 装 置	A B S	作 動 状 態			○					○	点検方法: 〔アクチュエーターの作動 状態の点検〕 ABS用チェッカーをアク チュエーターに接続し作動 を確認する。	自家用の第1回目 は36ヵ月に点検	

○印はメーカー推奨を示す。

3. 定期点検整備基準値

エンジン関係

項 目		エンジン型式	4S-FE	1G-FE	3Y-P	2L	
Vリブドベルト たわみ量 [押力10kg] (mm) ()内は張力(kg)	オルタネーター ベルト	A/Cなし	13~17 (30~45)	14~18 (25~40)	7~8 (35~45)	10~14 / 本 (20~35) [Vベルト 2本掛け]	
		A/C付き	9~11 (45~55)				
	A/C ベルト		—	9~11 (25~40)	9~13 (20~35)		17~21 (20~35)
	P/S ベルト		9~14 (20~35)	7~9 (20~35)	7~10 (20~35)		10~15 (20~35)
バッテリー液比重 [液温20°C]			1.250~1.270			1.270~1.290	
点 火 時 期 (°BTDC/rpm)	T 端子 短 絡 *サブ進角なし	M/T	10±2 / 650	—	*12±2 / 600	—	
		A/T	10±2 / 700	←	*12±2 / 750		
	T 端子 開 放	M/T	10~20 / 650	—	12±2 / 600		
		A/T	10~20 / 700	12以上 / 700	12±2 / 750		
噴射時期 [TDC静止] プランジャーリフト量 (mm)			—	—	—	0.60±0.06	
噴 射 圧 力 (kg/cm ²)			—	—	—	145~155	
アイドル回転数 (rpm)	M/T	650±50	—	600±50	750±50		
	A/T	700±50	←	750±50	800±50		
アイドルCO濃度 (%)			1.0以下	←	2.5以下(M/T) 1.5以下(A/T)	—	
アイドルHC濃度 (ppm)			800以下	←	←	—	
ディーゼルスモーク濃度 (%)			—	—	—	50以下	
アイドルキューム (mm/Hg)			450以上	430以上	480以上	—	
バルブクリアランス [冷間時] (mm)	IN	0.24±0.05	0.20±0.05	無調整式	0.25±0.05		
	EX	0.33±0.05	0.30±0.05	無調整式	0.45±0.05		
シリンダーヘッド締め付けトルク (kg·cm)			※1	650	900 (M12) 195 (M8)	※1	
インテークマニホールド締め付けトルク (kg·cm)			195	180	500	240	
エキゾーストマニホールド締め付けトルク (kg·cm)			500	260	500	530	
圧 縮 圧 力 [250 rpm 時] (kg/cm ²)	基準値	12.5	13.0	←	32.0		
	限 度	10.0	←	9.0	20.0		
	気筒差	1.0	←	←	5.0		
スパークプラグキャップ (mm)	基準値	1.0~1.1	←	← ※2	—		
	限 度	1.3	←	1.4			
ラジエーターキャップ開弁圧 (kg/cm ²)	基準値	0.75~1.05	←	←	←		
	限 度	0.60	←	←	←		

※1. 塑性域締め付けのため点検不要

※2. 白金プラグ使用のため点検, 調整不要

シャシー関係(1/2)

項 目		車両型式	SX 80, YX 80, LX 80	GX 81	
ステアリングホイールの遊び [ステアリングホイール外周にて] (mm) [油圧作動時]			0 ~ 30	←	
フロントホイール アライメント	サイドスリップ [1mにつき] (mm)		0 ~ 3	←	
	トーイン点検基準値 (mm)		2 ± 2	←	
	キャンバー点検基準値		0°30' ± 45'	←	
	キャスター点検基準値		7°20' ± 45'	←	
	キングピンアングル 点検基準値(参考値)		13°10' ± 45'	←	
リヤホイール アライメント	トーイン点検基準値 (mm)		0 ± 1	2 ± 2	
	キャンバー点検基準値		0° ± 45'	0°00' ± 45'	
フロントホイール 左右回転角度	内 側		41°00' ± 1°30'	←	
	外 側 (参考値)		34°	←	
ブレーキペダル (mm)	高 さ [アスファルトシート 上面より]		157 ~ 167	←	
	遊 び [負圧なしの状態]		1 ~ 6	←	
	踏み残りしろ [踏力 50 kg] [エンジンONの状態]		77 以上	←	
パーキング ブレーキ 引きしろ	レバ ー 式 [操作力20kg] (ノッチ数)		5 ~ 8	←	
	足 踏 み 式 [操作力30kg] (ノッチ数)		5 ~ 7	←	
パーキング ブレーキ	ドラムの内径 (mm)	基準値	—	176.0	
		限度	—	177.0	
	ライニングの 厚 さ (mm)	基準値	—	2.0	
		限度	—	1.0	
	ブレーキの 効き具合	制動力	検査時車両重量の 20 % 以上		
		操作力	50 kg 以下		
ブレーキドラム の 内 径 (mm)	後 輪	基準値	228.6	—	
		限度	230.6	—	
ブレーキ ライニング の 厚 さ (mm)	後 輪	基準値	5.0	—	
		限度	1.0	—	

シャシー関係(2/2)

項 目		車両型式	SX 80, YX 80, LX 80	GX 81
ディスクブレーキ パッドの厚さ (mm)	前 輪	基 準 値	10.0	←
		限 度	1.0	←
	後 輪	基 準 値	—	9.0
		限 度	—	1.0
ディスクブレーキ ローターの厚さ (mm)	前 輪	基 準 値	20.0	←
		限 度	19.0	←
	後 輪	基 準 値	—	10.0
		限 度	—	9.0
ディスクの振れ限度 [外周より10mm内側] (mm)	前 輪		0.07	←
	後 輪		0.13	←
ブレーキの効き具合 (注) 前輪のすべての車輪が ロックし、計測困難な場合 は、その状態で総和に対し て適合するものとみなす。	制 動 力	後 輪 和	軸重の20%以上	
		各輪左右差	軸重の8%以下	
		総 和	検査時車両重量の50%以上	
クラッチペダル (mm)	高 さ [アスファルトシート 上面より]		158~168	←
	遊 び [ペダル上にて]		5~15	←
	切れ残りストローク		25以上	←
プロペラシャフトの振れ限度 (mm)			0.8以下 1.1以下 (フレキシブルカップリング付き車)	
ホイールベアリング ハブ軸方向の動き量 (mm)	前 輪		0.05以下	←
	後 輪		0.7以下	0.05以下
ホイールナットの締め付けトルク (kg·cm)			1050	←
タイヤ残り溝 (mm)			1.6まで	←

タイヤ空気圧 (kg/cm²)

タイヤサイズ	一 般	高 速
175 SR14	1.7 1.9 (LX80)	2.0 2.2 (LX80)
185 / 70R14 88H 185 / 70R14 88S	1.9	2.2

4. 定期点検作業要領

1. 二次空気供給 (導入) 装置の機能

3Y-P

- (1) エアクリーナーキャップをはずした状態でアイドル運転をしたとき、エアクリーナーより吸入音 (ポコポコ音) がすることを確認する。
- (2) (1) の状態で、エンジン回転を約 2000 rpm に上げたとき、エアクリーナーより吸入音 (ポコポコ音) が止まることを確認する。

2. 排気ガス再循環装置の機能

3Y-P

- (1) エンジン暖機後、アイドル運転状態で、EGRバルブのパキュームホースに負圧がかかっていないことを確認する。
- (2) エンジンをアイドル回転から 3000 rpm までのレーシングを繰り返したとき、EGRバルブのパキュームホースにその都度、負圧がかかることを確認する。

2L

- (1) エンジン暖機後、アイドル運転状態で、EGRバルブのパキュームホースに負圧がかかっていることを確認する。
- (2) 水温 55°C 以下のアイドル運転状態で、EGRバルブのパキュームホースに負圧がかからないことを確認する。

3. 減速時排気ガス減少装置の機能

1G-FE

エンジン暖機後、ダッシュポットを作動させないようにし、インジェクターに指を当ててエンジン回転を 3500 rpm 以上まで上げ、スロットルレバーを戻したとき、インジェクターの作動による振動が一瞬止まることを確認する。

4S-FE

エンジン暖機後、インジェクターに指をあててエンジン回転を 3500 rpm 以上まで上げ、スロットルレバーを戻したとき、インジェクターの作動による振動が一瞬止まることを確認する。

3Y-P

エンジン暖機後、エンジン回転を 2500 rpm 以上まで上げ、スロットルレバーを戻したとき、レギュレーターのエ磁弁の作動音があることを確認する。